



＼ 退院について ＼

赤ちゃんは、家庭での生活が可能になれば退院できます。
退院可能となれば、退院日時のご相談をさせていただきます。



早く生まれた赤ちゃんの成長と発達についてですが2年間は、**出産予定日から数えて**考えます。2ヵ月早く生まれた赤ちゃんは、生後4ヵ月経っていても予定日から考えるとまだ2ヵ月となります。

赤ちゃんの**成長には個人差があります**。焦らないで見守りましょう。

＼ 体温と環境 ＼



赤ちゃんの体温は36.5℃～37.5℃が平熱です。

安静時の平熱を把握しましょう。泣いた後や授乳後は高くなります。

赤ちゃんは**体温調節が上手く出来ません**。

冷暖房や寝具・衣服の調節をしてあげましょう。

扇風機や冷暖房の風が赤ちゃんに**直接あたらないように**しましょう。

乾燥する場合は加湿器の使用も良いでしょう。



1～2時間おきの換気を忘れずに行い、

年間を通して1日1回は室内の空気を入れ替えましょう。

また、家の中で一番環境の良いお部屋を選んであげましょう。

日当たりが良く風通しの良い部屋で、

部屋の温度は、冬は18～22℃、夏は25～27℃が目安です。

また、室内での喫煙や殺虫剤、芳香剤など空気を汚すもの、
テレビや電話目覚まし時計など大きな音が出るものなどは
避けましょう。

騒音や振動がある場所では赤ちゃんはゆっくり眠れません。



健康状態



健康状態は、睡眠・機嫌・泣き方・食欲・排尿・排便・体温・体重増加・皮膚状態などを
目安に判断しますが、個人差もあります。



全身の観察

- 機嫌は良いか
- 活発か
- ぐったりしていないか
- 顔色は悪くなってないか
- 熱はないか
- お腹は張っていないか



ミルクの飲み具合について

授乳回数や1回の量は赤ちゃんによって違います。

- 力強く吸う
- 量は少ないか
- 多量に（勢い良く）吐いていないか



授乳のポイント

赤ちゃんは空気も一緒に飲むので、授乳後はげっぷをさせて寝かせましょう。
げっぷをしないときもあるので、その時はしばらく縦抱きにする、
顔を少し横に向けるなどして寝かせましょう。
げっぷと一緒に少量のミルクが口から出ても心配はありません。

【ミルクの作り方】



QRコードかURLを携帯やパソコンから読み
込んでいただくと閲覧することができます。
不明な点はスタッフにお尋ねください。

<https://m.youtube.com/watch?v=Z7U27ab73sg>

【K2シロップの飲ませ方】



<https://photos.app.goo.gl/k45CKGpnUn9E2Acp9>



哺乳瓶の消毒について

授乳後の瓶と乳首は雑菌が繁殖しやすい為、すぐにブラシで丁寧に洗います。
薬品消毒は1時間以上浸水します。
消毒後はそのまま使用できますが、匂いが気になる場合は白湯で流して下さい。

排尿・排便について

- 濃い緑で臭いが強い
- 白色便
- 赤い血がたくさん混じる
- 黒色便
- 水様で普段より回数が多い

※便の色については親子手帳のカラーページを参照して下さい



排尿や排便は定期的にありますか。赤ちゃんの便は様々です。
母乳かミルクかによっても違い、同じミルクでもその子によって違います。
日頃から色や臭いの変化がないかよく観察しておきましょう。

何かいつもと違って気になる場合は医療機関に相談しましょう。

オムツかぶれについて

オムツは、汚れたら取り替えていつも清潔な状態にしましょう。

オムツかぶれの主な原因は、**むれと汚れによる雑菌の繁殖**です。

汚れはきれいに拭き取り、乾いてからオムツをしましょう。

おしりが赤くなってしまったら、

汚れをこすらず洗い流し水分を拭きとりましょう。



便秘とはうんちが硬く、排便の回数が減り、排便時に苦痛を伴う状態です。

便が出ない場合は、お腹のマッサージなどを行いましょう。

ひどくなるようなら、医療機関に相談しましょう。

沐浴のポイント

QRコードかURLを携帯やパソコンから読み込んでいただくと
閲覧することができます。不明な点はスタッフにお尋ねください。

https://drive.google.com/file/d/1S6Y6U8gj0qQGltu_MeBUsrcCqxBmJPW8/view



感染対策

赤ちゃんは、感染に対する抵抗力が弱いです。

赤ちゃんと接する前には、必ず**流水と石鹸**で手を洗いましょう。

外出から帰った時はうがいをし、**多人数の面会**は控えましょう。

特に風邪をひいている人や**体調がすぐれない人**との接触は避けましょう。

兄弟姉妹がいる場合は、流行っている**感染症**に気をつけましょう。



赤ちゃんに多い事故は窒息



赤ちゃんは、**顔にかかった物を自分で取り除けない**ので、
ベッドの周囲に落ちたり、倒れたりしそうな物は置かずに
収納ケースなどにまとめましょう。

犬や猫・小動物は、赤ちゃんに思わぬ怪我をさせることがあります。
また、感染症やアレルギーの原因となることもあるので赤ちゃんが
小さいうちは**ペットとは別の部屋で過ご**しましょう。



退院後の受診

赤ちゃんが退院した後は、**乳児健診や新生児フォローアップ外来**で成長や発達、
病気の経過をみていきます。

予防接種や離乳食の開始についても説明します。

退院時に医師より**外来の受診日**について説明があります。

詳しいことはお渡しする『**乳児健診・新生児フォローアップ外来を受診される方**』を
ご覧ください。

聞いておきたいことや心配なことがあれば、**まとめてメモ**をしておきましょう。



☆☆育児等についての相談は24時間受け付けています☆☆

お気軽にご相談下さい



病院代表 TEL 086-462-1111

12階南病棟NICU

